

サハリン州における障害者スポーツ大会

著 者： シャトゥノフ・ユーリー・ドミトリヴィッチ（サハリン州住民保護局障害者部）

訳 者： 藤原 安佐（北海道大学大学院教育学研究科）

監 訳： 須田 力（北海道大学教育学部教授）・ 浅尾 秀樹（北方圏生活福祉研究所）

障害者スポーツ大会（スパルタキアード）について

サハリン州には22,062名の身障者が居住している。内訳は第1級障害度が3,014名、第2級障害度が12,739名、第3級障害度が3,894名、児童の身障者が2,415名である。毎年約3,000名の身障者が新たに認定されている。

障害者数の増加は、必然的に州の住民組織全体に障害者問題解決への強い関心を求める。すなわち、国や行政機関が障害をもつ人びとの機会均等化に関する基準原則が守られるよう活動する。この原則とは、第48回国連総会定例会議で採択されたものである。

身障者の社会復帰には、最も効果的である体育やスポーツが、重要な役割を担っている。多くの場合、体育やスポーツが、全体あるいは部分的リハビリや一般社会生活復帰への唯一の方法であると言える。

障害者はつねにスポーツをすることに惹かれる。その結果は、健康度が低下した人々に対しても、スポーツは活発で肯定的な動機付けとなり、精神的自立の形成を促すことを証明している。言い換えると、社会復帰機能を果たすことになる。これらを考慮し、サハリン州住民保護局は障害者協会の協力を得て、1997年から年に一度、州主催障害者スパルタキアード（注1、総合スポーツ大会）の開催を始めた。

スパルタキアード実施前には多大な準備作業が先行する。これに関しては、州知事の決定に相当するスパルタキアード実施条例が、財政・経費、責任者などを明確にして公示されることから始まる。決議資料はスパルタキアード実施規定と共に、行政機関が運営を行っている各地区に送付される。かくして市や地区主催のスポーツ競技会の計画・実施はスムーズに活動していく。

こうして1998年、第2回州主催障害者スパルタキアードが開催された。スパルタキアードは二段階で行われる。第一段階は7月から8月にかけて、町、地域単位での競技会（地区予選）が、第二段階は、ユジノサハリンスク市で本大会が行われ、ここには各市町村の代表が参加する。

第一段階では町や地域の住民保護局及び体育委員会に相当する委員会が、障害者の積極的なスポーツ参加と競

技会の組織化に関して重要な役割を担う。住民保護局は、勝利者の表彰、大会参加者の記念品授与式の方法を模索し、スポーツ組織が具体的に競技実施を可能にし、スポーツ器具の確保、事前トレーニングの組織化などに関する支援を行う。

マカロフ地区では、障害者競技会が成功裡に終わった。60名以上の参加者が受け付けられ、7種目の競技が行われた。種目は空気銃による射撃、卓球、チェス、チェッカー、アームレスリング、バスケットボールのゴールに



写真1 スパルタキアードにおけるチェス競技

ボールを投入するフリースローゲーム、テニスボールによる的あて競技である。

競技会は、1998年7月1日から3日間にわたって開催された。最終日には閉会式が催され、表彰式と記念品授与式も行われた。地区長サフォーロフ.E.A.は各地区の障害者スパルタキアードの実施に対し、積極的な援助、支援を行った。

ホルムスクでは、“障害者のスポーツに—あらん限りの支援を—”をスローガンにスパルタキアードの第一段階が行われた。障害者には、トレーニングルームと重量挙げルームが提供された。

ネベリスク代表選手の好成績は、地元の人々を喜ばせた。障害者スパルタキアードに際し、地元住民が障害を持つ選手のために、地区全体でお祭り（祭典）を開き、ドリンスク、コルサコフ、トマリ、アレクサンドロフスクサハリンスクなどの小さな町からも障害者を招待し

た。

審査委員会は全員一致で全参加者が定められた基準を満たしていることを確認した。住民保護局と組織委員会は、問題もなく第2回州主催障害者スパルタキアードに参加する選手を決定した。

住民保護局とドリンスク、コルサコフ、タマリンスク、アレクサンドロフ・サハリンスク地区の行政体育委員会は、スパルタキアード第一段階を周到な準備の下に実施した。事前準備段階及び地区競技会において、障害者の団体は数多くの重要な役割を担っている。特にサハリン州聴覚障害者協会、視覚障害者協会、及びウゴレゴルスク、マカロフ、ポロナイスク、その他いくつかの町における全ロシア障害者協会の組織が積極的に活動した。スパルタキアード第一段階全体で、約400名が参加した。このことは、スパルタキアード最終段階に充分な力をもったチームを送り込むことを可能にする。第二回地区障害者スパルタキアードには、11地区から14チーム122名が参加した。ユジノサハリンスク精神障害者の第一寄宿舎チーム、サハリン州視覚・聴覚障害者協会などが独自のチームを結成した。スパルタキアードには、運動障害、心臓疾患、外傷などを持つ障害者が参加した。

スパルタキアードは、保養センター“シネゴルスク鉱泉”で開催された。



写真2 スパルタキアード開会式
(前列右から2人目が、ワレンチン・ズロービン)

スパルタキアード前日までに“スポーツの祭典”開催に向け、保養所の準備にかかわったスポーツ施設の修理、屋内射撃場・プールなどの準備、走路、車椅子競技実施用トラック配置など、数多くの作業がなされた。

スパルタキアード参加者全員には療養所内の宿泊所と食堂内の食事が無料で提供される。

大会開催の必須条件は、選手のメディカルチェック強化を義務づけることである。そのため、大会規定では類似した機能を持つ選手のグループ形成を規定した。大会

期間中、医師・看護婦による24時間体制の当直班が組織され、必要時には即座に治療が行われた。

審判員班の構成には、特別注意を払っている。22名の最高位の専門家から成る審判員班がスパルタキアードの判定を保証する。この班は、ボクシングの度重なるサハリン州チャンピオンで、全ロシアスポーツマスターであるB.P.バユーシュキンを班長とし、陸上競技は夏期スポーツ学校校長、共和国の公認審判で、多大な功績を持つロシアのトレーナーのE.M.コムナツキーが、アームレスリングはソビエト功労スポーツマスターで、共和国の公認審判であるV.N.ブリーキンなどが審判を行った。このような審判員達は障害者スパルタキアードに出来る限り深く注意を払ったため、障害を持つ選手自身も、スパルタキアードの権威、意義に高い意識を抱くに至った。

盛大なスパルタキアード開会式では、地区ごとに構成されたチーム、ロシア国旗及びサハリン州旗の掲揚、地域の学校の子供達による各チームへのパンと塩の儀式が印象的であった。スパルタキアード開催記念パレードでは、重量挙げのソビエト功労スポーツマスター、V.N.ブリーキンが采配を振るった。

障害を持つ選手を歓迎する言葉で、住民保護局長のマロツォフ.B.I.は、スパルタキアード準備に関し、住民保護局が組織をあげて取り組んだ活動を高く評価し、結果的に障害者のスポーツは、あらゆる社会発展の性格を持つことを強調した。また、行政区の体育・スポーツ委員会、観光委員会の委員長も、障害を持つ選手を歓迎した。



写真3 スパルタキアードにおけるダーツ競技

2日間にわたって開催されたスパルタキアードでは、陸上競技、ダーツ、空気銃射撃、卓球、体操、バスケットボールによるフリースロー、チェス、チェッカー、テニスボールの的あて、アームレスリング、水泳、車椅子のフィギュア操作、車椅子走などの13種目の競技が行わ

れた。

スパルタキアードの勝利者たち

審判委員会本部は、競技参加者の希望を考慮し、参加選手の競技種目を限定することはしなかった。例えば、60m競走は35名が受付を行った。女子では第2級障害度グループ、第2級精神障害者の第一寄宿舍、リュドミラ・リブナが10.4秒、男子では第3級障害者の部で、ネベリスク代表ユーリー・フバンが8.3秒の最高記録を出した。

25m水泳には30名が参加した。女子第1位は第3級障害者の部で、ユジノサハリンスク代表ニーナ・チャリエバが29.5秒、男子は第3級障害者の部で、ユジノサハリンスク代表ビクトル・ミハイロフが19.0秒で優勝した。

水泳においては視覚障害者で第1級障害者のワレンチン・ズロービンが抜きこんでいた。盲目である彼は、人生の味を失うことはなかった。特にスポーツが彼の不運を克服するのに役だった。彼は生涯、スキー、陸上、マラソン、アームレスリング、水泳など様々なスポーツを楽しんでいる。

最高の成功を収めたのは、冷水あるいは氷水の中を泳ぐ寒中遠泳である。イスイククリ湖やバイカル湖での数日間にわたる24時間レースも含め、全国「寒中水泳マラソン」協会主催の多数の困難な競技会に参加した。ズロービンは、寒中水泳選手（スイマー）上位10名の中に入っている。1991年に彼は水温10度から13度のイスイククリ湖で6キロを4時間で泳ぎ渡った。自己記録は、ロシアの記録収録集「ディボ」にも記載された。

ワレンチン・ズロービンのスパルタキアード参加は、身体に障害があるにもかかわらず、極めて困難な人生や極端な状況に臆することなく、スポーツの高い記録に到達することができるという一つの証でもある。

スパルタキアードで最も参加者が多い競技は、ダーツで、80名の参加が受け付けられた。女子の第一位は第2級障害者の部で、精神障害者用第1寄宿舍のリュドミラ・リブナで130点を獲得した。男子では第2級障害者の部で、トマリ代表キム・ウラジーミルが170点を獲得し抜群の成績で優勝した。

空気銃の15m射撃には70名が参加した。女子では第3級障害者の部で、ユジノサハリンスク代表、ガラバノバ・スヴェトラナが最も正確な射撃者である。彼女の成績は33点であった。男子では48点を獲得したアレクセイ・マスレニコフの右に出る者はいなかった。彼は第3級障害者の部で、アレクサンドロフスクサハリンスク代表である。

車椅子操作の高技術、有能性、素早いフィギュアに対

し、審判委員会は2名の選手に褒賞を与えた。第1級障害者の部で、ティモフスク出身スミロブ・セルゲイは26.6秒、第1級障害者の部、精神障害者第1宿舍、ジマエフ・オレグは26.7秒の記録を出した。



写真4 アームレスリング競技

2日間にわたる熾烈な戦いで、スポーツ競技会の勝利者が明らかになった。聴覚障害者協会、精神障害者第一宿舍、マカロフ、ウグレゴルク、ネベリスク、コルサコフ地区の各チームが最も多くのメダルを勝ち取った。

スパルタキアードのファイナルにおける感動的瞬間は、最終結果発表、メダル、賞、参加記念品授与式（表彰式）である。各種目、上位3位の勝者は、メダルと住民保護局、体育、スポーツ、観光委員会からの賞状が授与される。合計80個の賞が与えられ、その他に次の特別賞が与えられた。

「必勝の決意」賞は、ホルムスク代表、第3級障害者で両足損傷のため脇腹で走ったセレシウキン・イーゴリ。

最年少参加賞は、コルサコフ代表の第2級障害者で18歳になったばかりのカルパバ・オリガだった。

「勇気を称えて」賞は、ユジノサハリンスク代表、第1級障害者で精神障害者第1宿舍で、懸垂で31回、自分の体を持ち上げた記録を達成したジマエバ・オリガであった。

「最強選手賞」の、ミトケビッチ・マルガリータ・ゲオギエブナは、1937年生まれ。ユジノサハリンスク代表第2級障害者で、体操用のベンチで37回、腕立て伏せを達成した。

「最高齢参加者賞」は、75歳で視覚障害を持つフリボバ・リュウボバ・ペトロブナで、彼女は第1級障害者でチェッカーの名手である。

スパルタキアード参加者全員には記念品が贈られる。スパルタキアード開催中、プレスセンターが活発に活動した。大会の進行を表す色鮮やかなページ、写真による

印刷物が発行され、参加者の競技記録と試合経過のニュースは、地方のラジオ局で放送された。

大衆文化プログラムは特に注目された。障害をもつ選手達のために、最高芸術の一つであるアンサンブル“エトノス”が、指揮者N.S.エイジノブをリーダーとしてコンサートに出演した。

ディスコでの交流や音楽とダンスの夕べにおいて、多くの思い出が障害者に残った。車椅子の障害者が（女性が男性、あるいは男性が女性の車椅子を押して）ダンスに興じた光景は、とりわけ参加者を感動させた。

スパルタキアードの経過は、地区の報道で広く伝えられた。実際、全新聞、ラジオ、テレビはスパルタキアードに関する独自のレポートを報じた。

一言で言えば、スパルタキアードが障害者にとって真の祭典になるため、多くのことが成し遂げられたのである。地区大会が終わると、障害者は次の競技会の準備が待ち遠しいと感想を述べ合った。



写真5 卓球競技

(注1) “スパルタキアード”は、総合スポーツ大会という訳語もあるが、カタカナで表記した。